

10月から多子世帯の保育料の無償化・軽減が第2子まで拡大されます

☎ 保育課保育係 ☎ 95-9887

対象者 満18歳に達する日以降の最初の3月31日までにある児童のうち出生の最も早い者から数えて2番目の者で、以下の対象施設に在籍する0歳から2歳児クラスの児童

対象施設 市内の認可保育所、こども園、小規模保育事業所

申 不要

他 ・進学や諸事情により別世帯で監護している児童がいる場合、書類の提出が必要ことがありますので、保育課まで相談してください。
・対象者には10月上旬頃に保育料決定通知書を送付します。

▼無償化・軽減内容

児童の区分		保育料・延長料
第1子（最年長児）		全額
第2子		
所得割額 市 民 税	97,000円未満の世帯	無償
	97,000円以上の世帯	半額
第3子		無償

未来へつなごう！スマイルトーク（意見交換会）を開催します

☎ 秘書課広報統計係 ☎ 95-9867

市長と幹部職員が各地区へ出向き、直接市民の皆さんと意見交換を行う「未来へつなごう！スマイルトーク」を開催します。

▼日程 いずれも19時～20時30分

開催日	地区	会場
9月30日(火)	棚尾地区	棚尾公民館
10月6日(月)	西端地区	西端公民館
10月15日(水)	大浜地区	南部市民プラザ
10月21日(火)	旭地区	東部市民プラザ
10月27日(月)	新川地区	へきなん福祉センターあいくる
11月12日(水)	中央地区	中部公民館

申 各開催日の1週間前までに碧南市電子申請・届出システム、申込書（秘書課又はホームページで入手）をメール（☎hishoka@city.hekinan.lg.jp）又は直接のいずれか

他 ・参加は1回まで

・開催後、内容を広報へきなん及びホームページで公開します。

市長コラム



こどもの育ちをみんなで

支えあうまち へきなん

473人。（日本人419人、外国人54人）これは昨年度碧南市で産まれた赤ちゃんの人数です。20年前の約4割減の出生数となりました。

国全体でみても、昨年、国内で生まれた日本人の子どもは68万6061人で、初めて70万人を下回り、予測よりはるかに早いペースで減少しています。

この少子化傾向を反転させようと、国を中心に様々な子ども施策を打ち出し、取り組んできましたが、歯止めがかりません。この原因は、経済的な不安定さや仕事と子育ての両立の難しさなど、個々の結婚や出産、子育ての希望の実現を阻む様々な要因が複雑に絡み合っているとされています。

また、近年では不登校、虐待、いじめなども年々増え、子どもたちにとって生きづらい社会になりつつあります。

子どもたちが一個人として尊重されない社会は、私たち大人にとっても生きにくい社会です。また、将来を担う子どもが健全に成長しないことには、社会の発展も見込めません。誰もが生きやすい社会の実現のために、大人が自分ごととして、子どもの権利に関心を持ち、行動を起こす必要があります。

そこで、碧南市は7月28日に「こ

もまんなか応援サポーター」になることを宣言しました！

こども家庭庁が提唱する、子どもたちの為に何が最も良いことを考え、子どもたちが健やかで幸せな生活を送ることができる社会を実現するという「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、その取り組みを応援し、市もアクションを起こしていきます。

宣言後は、引き続き子ども施策の推進、子育て情報の発信をし、少しでも社会の意識が変わり、構造や制度が変わっていくよう積極的に取り組んでいきます。

SNSやYouTubeでの配信時は、「#こどもまんなかやってみた」をつけて配信をし、地域の皆様にも応援していただけるよう活動していきます。

なお、同時期に、（二社）碧南青年会議所より「ベビーファースト運動」への参画のお誘いをいただき、「こどもまんなか」の趣旨とほぼ合致したため同時に宣言をし、碧南青年会議所の皆様と一緒に「こどもを産み育てたくなる社会」の実現を目指します。

全ての子どもや若者たちが幸せに暮らせるよう何ができるか、の答えは様々で正解はありません。

あなたも、あなただからできる、こどもまんなかに向けたアクションにぜひご協力をお願いします。

市長メッセージ動画も

配信中！

